

最近、テレビやポスターなどで、絶滅危惧種という言葉を目にします。

なぜ絶滅してしまう動物がいるのか？ 絶滅をくい止める方法は無いのか？ 川根本町にも絶滅しそうな生き物がいるのか？ など多くの疑問が湧きました。

そして、何より私たちは動物が好きです。

このため、テーマを「絶滅危惧種の現状と対策について」と決めて学習を進めました。

絶滅危惧種とは、その名のとおり、絶滅に追い込まれている動植物のことで、その危険度の

基準として、Ⅱ種、ⅠB種、ⅠA種、絶滅種に区分され、絶滅種に近い方が危険度が高い基準となっています。

静岡県では、2002年から2004年にかけて絶滅危惧種が増えている傾向にあります。

絶滅に追い込まれてしまった原因としては、人間からの被害によるものが75%、自然に絶滅してしまうものが25%あります。

それをさらに細かく分けると、環境破壊が原因のものが19%、持ち込んだ生物(外来種)の影響によるものが

23%、狩猟によるものが33%という結果になりました。

そのほとんどが人間の手によって絶滅してしまっていることが分かります。

特に外来種による被害の多くは、人間が持ち込んだためと考えられ、その影響は甚大です。

幸いなことに、川根本

町には外来種が繁殖している事例はありませんが、もしも、外来種が入ってきたらどうなるのでしょうか？

主には生態系への影響です。

1つには、外来種の混入により、在来種との間で激しい生存競争が起こります。外来種も生存するため餌をとったり、住む場所を確保する必要があるためです。

そして2つ目は、外来種が在来種を食べてしまうことです。これにより在来種は絶滅に追い込まれます。

3つ目は、雑種をつくってしまうことです。外来種と在来種が交配して雑種をつくってしまう、在来種が持つ元々の特徴が失われていきます。

これら外来種によってこの地域に元からある動物や植物が駆逐され、絶滅に追い込まれてしまうのです。

また、外来種には毒を持つものもあるため、人間への影響も心配です。

県や国では絶滅対策を考える

連盟などの組織はありません。しかし、法律や条令で定められていることもあります。

川根本町では環境対策は行っていますが、絶滅対策というのには行っていません。

この地域にも絶滅危惧種が存在します。

中川根の鳥でもあった「ヤマセミ」です。

ヤマセミは「絶滅の危険が高まっている」状態のⅡ種に属しています。そして近年、急激にその数を減らしている野鳥です。

主な原因としては、河川や護岸などの工事で住む場所がなくなってきたり、などが考えられます。

こんな自然豊かな町にも環境破壊による影響が出ています。

今後、絶滅してしまう生物をなくすためにも、自然を大切にしていかなければならないと思いました。



環境破壊や外来種の影響で、絶滅していく生物がいます。そのほとんどは、人間の影響によるものです。

1年 藤田奈穂さん

1年 鈴木涼子さん